

令和元年度小松市立符津小学校 学校評価(中間)

めざす児童生徒像

進んで自分の考えを表現し、振り返りや交流で深めることができる子。

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策	
学校重点項目 (学校で設定)	表現する力の向上		①の4段階評価のA+Bの割合が80%以上にする。	① 算数科の授業の中で事象・考え方を言葉・式・図・表などを使って表現している。	・①の項目について、4段階評価のA+Bの割合が、職員は85%、児童は88%で、どちらも目標指標以上であった。手本となるノートの掲示・交流を行ったことで、めざす表現を共通理解することができた。	・お手本となるノートの掲示や交流を継続的に行い、自分の考えを表現する力を向上させる。 ・符津っ子テストの正答率を上げるために、単元の中に記述式の適用問題を解く時間を確保したり、振り返り等で条件を意識できるような取り組みをしていく。	
				② 手本となるノートの掲示・交流を行っている。			
				③ 授業のノートを自学や算数新聞で振り返っている。			
				④ 符津っ子テスト(説明する問題を含む)で平均点70点以上とっている。			
集計							
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善		①②③の4段階評価のA+Bの割合が90%以上にする。	① 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の標準化がなされている。	・校務分掌の標準化・組織的な学校運営という項目では、「働き方改革」という意識の高まりがみられ、職員アンケートは高かった。 ・組織的な学校運営については職員アンケート結果がやや低く、各校務分掌の分業化・自主的な運営が足りないと感じていることが分かる。	・組織的な学校運営という点で、各部のリーダーに働きかけ、「いつ」「だれが」「なにをするのか」を明確にして計画・実践・検証していけるようにする。そのためにも、見通しをもってリーダーが声掛けし全職員に意識付けしていきたい。	
				② 自分の校務分掌を自覚して行い、組織的な学校運営がされている。			
				③ 電子会議室を活用し、印刷・配布時間や連絡時間の短縮を行っている。			
				集計			
小松市共通重点項目	学校研究		②③の4段階評価のA+Bの割合が95%以上にする。	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	・②③の両方とも4段階評価のA+Bの割合が100%となり、取組を計画的に行うことができています。	・2学期以降も計画的に、授業改善に向けて取組を共有・実践していきたい。	
				② 研究主題に迫る目指す授業像(児童生徒像)を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。			
				③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。			
				集計			
	指導力の向上	授業		①の4段階評価のA+Bの割合が80%以上にする。	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	・①の項目について、4段階評価のA+Bの割合が、職員は100%、児童は89%で、どちらも目標指標以上であった。ほとんどの児童が、学習課題について自分で考えようと取り組もうとしている。 ・③の項目について、児童の割合が82%だが、学年が上がるごとにAの割合が減ってきている。	・今後はさらに、児童が意欲的に学習課題に取り組めるよう、課題設定の工夫や課題提示の手立てを考え、授業改善に努めていく。 ・③と④の項目について、教員と児童の割合の差が大きいため、今後、発表力を向上させる取り組みを実施したり、意識してふり返りを行ったりして、差をなくしていきたい。
					② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。		
					③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。		
					④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。		
					⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。		
					⑥ 児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。		
	集計						
	学力の定着	学力調査		がんばりテスト(漢字・計算)で両方80点以上取っている児童の割合を75%以上にする。	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	・計算と漢字を比べると、漢字の定着が難しい。新出漢字学習の効果的なやり方が分かっていないことが考えられる。また、間違えた場合にどのように直したり復習したりしているかが曖昧になっていると思われる。 ・前学年までの漢字が定着しておらず、漢字を使う意識が低い児童もいると考えられる。	・漢字の力が伸びた学級のやり方(熟語での練習を重ねる)を職員で共通理解し、練習の仕方を徹底する。使い方を考えて書く習慣を身につけられるようにする。 ・間違えた問題の直しを確実にし、再度プリント等で定着を確認する。また、毎日の連絡帳に漢字と計算の問題1問ずつ必ず入れることや、定期的の下校前にお帰りの問題を2、3問行い、できた・分かったを積み重ねていく。 ・授業の中で、これまでに学習した漢字は必ず使って書くなど、定着に向けての指導を徹底する。
② 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。							
③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)							
④ がんばりテスト(漢字・計算)で両方80点以上取っている。							
⑤ 目標を達成できなかった児童に個別支援を行っている。							
集計							
家庭学習			家庭学習強化週間中の宿題提出率を95%以上	① 自分で計画を立てて勉強している(3年以上)	・家庭学習を継続して取り組める児童が多く、2回のがんばり週間とも95%前後の提出率であった。先生方の声かけがあったことやがんばりカードがあることで児童の意識が高まったためと考えられる。	・今後も、児童が意欲的に学習ができるよう取り組みを継続していきたい。 ・計画を立てての勉強については、落ち着いて学習できる環境の準備や学習開始時刻の設定、少なくとも学年×10分は学習するというカードに明記し、児童と共に共通理解していく。	
				② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている			
				③ 宿題を家で行い、提出している。			
				集計			